

AJU
童里夢

どりいむめっせーじ
2010年 特別号：10周年記念誌
社会福祉法人 童里夢
〒441-1112 愛知県豊橋市石巻町字野田6-5
0532-87-0800 / (fax) 0532-87-0801
dori imu@mx3.tees.ne.jp



童

里



夢



10

周

年

記



年

誌



温

古

創

新

ひとつひとつの思い、夢のカタチを確かめて、未来への道標に！

障害福祉の現場から

井口 健二

社会福祉法人童里夢が、設立10周年の輝かしき節目を迎えられたことに心からお慶び申し上げます。

平成13年に現在の就労生活支援センター童里夢を開設して以来、利用者の成長やサービス体系の変化に合わせてグループホームやPan-kan製造センターを順次開設するほか、地域で暮らす障害のある方々に対しても、それぞれの自己実現を目指して地域生活支援センターを立ち上げ居宅介護、短期入所、相談や移動の支援サービスを精力的に実施され、社会的にも貢献されていることは高く評価しております。今後とも地域の実態に合った事業運営を展開されることを大いに期待しております。

さて、私自身が童里夢に関わったのは、14～15年前、通所者1人で立ち上げた小規模授産所の当時からでした。雨漏りするプレハブ家屋で決して整った環境ではなかったものの、元気に通ってくる利用者さんと職員さんの熱気が常に伝わり、現在の基礎を築いた立派な施設であったと思います。

その後、突然の法人化の申し出から始まり、施設建設用地となる市有地の選定、国庫補助金獲得、設計・建築など、目まぐるしいほどタイトな日程を経て開所式にこぎ着けた時の皆さんの“輝く瞳”を今でも覚えています。



また童里夢は、本市では初めて訓練の一環として施設内でレストランを運営する一方、パンの製造販売などを通じて地域に密着し、より社会に近い福祉施設として定着しています。これら指導の延長線として、今後は是非とも一般就労や自立生活が可能な利用者を1人でも多く社会に送り込んでいただくとともに、利用者の回転による活性化にも大いに期待しております。

そして、地域生活支援センターについては、私的契約の移送サービスとして「福祉有償運送」を当初から取り組まれるなど、現行の障害福祉サービスでは目的を達成できない事業もありますので、今後とも実態に即したきめ細かなサービスの提供を期待しております。

社会福祉法人化10周年を迎えて思うこと 西川良繼

☆東三河の「どんぐりの家」☆

私は東京での大学生時代のボランティア活動で出会った漫画家、山本おさむ氏がいる。その方の作品中に「どんぐりの家」があり、障害のある子供を持つ家族が、小規模授産所を立ち上げ、そして社会福祉法人化するまでの実話にもとづくドキュメント漫画である。

20数年前に実在する「どんぐりの家」に

桜丘高校の教員として、ボランティア部の生徒やOBを連れて研修に行ったときに、「障害のある方々」が安心して笑顔で過ごせる空間をとても丁寧に作り続けている「心ある人たち」に包まれた暖かい場所だと感じた。そして、その居場所は熱意と行動力によって夢が必ず実現することを私や生徒達の心に強く残した。この東三河で実践し、夢を実現したのが童里夢で、まさに



童里夢は、この東三河での「どんぐりの家」であると思う。

☆童里夢と桜丘高校地域活動部☆

さて、私と生徒たちの童里夢との関わりは 13 年前にさかのぼる。

私が教員をしている桜丘高校は、ボランティア部をはじめ、和太鼓部、生徒会と地域に関わる活動が盛んである。その学校を障害のある子供を持つ母親三人（童里夢）が訪問され、「障害のある子供たちに安定した居場所をつくりたい。生徒達の若い力が必要です！」と、私や教員のリーダーであった岩田先生に訴えかけ、その情熱と思いに桜丘学園全体でぜひ応援しようという動きになった。

多くの部活動に呼びかけ、法人化のための映画上映会やコンサートなどの自主企画にボランティア部のみならず柔道部や剣道部などの生徒たちがボランティアで参加した。そのとき、生徒たち多くの大人たちが懸命に作っていく姿や障害のある人たちの懸命に生きる姿に人の優しさと清らかな心を感じる事ができた。また、活き活きした笑顔で明るく動き回っていた生徒たちの姿は、私だけでなくそこに関わった方たちが強く印象に残っている。

その呼びかけに来た母親のひとりの子供が桜丘に入学し、ボランティア部で活動するようになり、部長として活躍するようになった。つまり知的障害のある兄が童里夢に通う、そして弟が桜丘高校のボランティ

ア部部長として活動をする状況であった。

そこには、障害のある兄や家族から受けた明るく頑張る姿や笑顔や笑いのある環境をきっかけに成長していったボランティア部部長を見る事ができた。このことを含めた様々な連鎖が、桜丘高校に障害者も小さな子供も一緒に使えるバリアフリートイレ（愛知県人にやさしい街づくり特別賞）を設置することにつながり、トイレ完成後に 24 時間テレビ草の根チャリティー募金会会場として桜丘高校で 24 時間フルの募金や企画をしている様子が放映され、童里夢の法人化の活動も取り上げられたほどだった。

☆目標となる社会福祉法人「童里夢」☆

社会福祉法人を取得し、それを維持するのは並大抵の事ではない。それも資産家や事業家で財産のある方でなく、障害のある子を持つ親たちがそれを目指す事はとてつもなく大変な事だと思う。

小さな障害者の作業所（小規模授産所）をつくるのも大変だった時代に、障害のある子供の親たち中心に「小規模授産所つばさ工房」がはじめて豊橋に誕生（平成 2 年）した。そこを目標に 10 数年の時を経て 10 を越える小規模授産所や作業所が誕生した。しかし障害者の福祉政策の変化で維持が難しくなり、社会福祉法人や NPO 法人に変わりつつある。

その社会福祉法人の目標が「童里夢」である。レストラン事業やパン缶事業、豊橋向山アピタとの提携などは、この地では初めての試みをしながら事業を開拓し続けている。先人に習い、新たなものを創造する社会福祉法人であり続けてほしい。

また、若い力だけでなく多くの人たち、地域に団体に声をかけ、様々なところに出向き学ぶ。そして施設のある自治会との信頼関係や協働。何より障害のある方のいい顔を大切にする。この姿勢が私たちの心や社会を豊かにすることを確信する。これからもそういう「童里夢」であってほしい。

ボランティア活動を通して願うこと

石原紀久代

このたび、社会福祉法人“童里夢”が創立10周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

平成7年、無認可の小規模作業所として運営されていた頃の“童里夢”を見学させていただいたのが、私と“童里夢”との出会いでした。それから早14年の歳月が経ち、“童里夢”が素晴らしい施設へと歩まれていることは驚くばかりです。

当時、私は豊川市の小中学校特別支援学級相談員として、将来生徒たちがどのように自立の道を歩むのが一番望ましいのか、思案していたころでした。共に汗を流し、共に笑い合い、共に語り合える社会参加と自己実現の場が本当にあるのだろうか、そんな時に知ったのが“童里夢”でした。共に手を取り合って成長していくための場、それが“童里夢”でした。現職中は、なかなか訪れる時間も機会もありませんでしたが、定年退職後、再び応援団としてお付き合いさせていただくことになり、5年になります。

“童里夢”的皆さんは、私が訪問させていただくたびに、実に明るく、人なつっこく接してくれます。自然に他人を受け入れる素直さ、純粋さは、日頃支援をされている職員の皆様方の、適切なご指導の賜物ではないかと思います。

イベントへの参加、パンの販売、おたより、(どりーむめっせいじ)の封筒への折り込みなど、私がお手伝いできるのは、本当に少ないのですが、“童里夢”的皆さんと共に時間を共有できることが、今の私の一番の生きがいになっています。利用者さんは、お話しが大好きです。何か話しかけようかと、その機会を待っているところもあり、私としては、時に、何をどのように導けばよいのか戸惑うこともあります。個々の対応、関わり方など、まだまだ私自身勉強していかなくてはいけないことが多くあります。また、“童里夢”的お手伝いをさせ



ていただいているお陰で、私自身の障害者支援ボランティアとしての活動の場が広がってきました。これから先、私も応援団として長く活動を続けたいと考えていますが、こうした応援団の存在をもっと広く世間の人々に知ってもらいたいというのが、現在の私の一番の願いです。

先日ニュースで、ベンチャー企業の若者が会社を午前中で終え、午後は老人ホームへボランティアに出かける活動をしていることを伝えていました。このように、世の中では、ボランティア活動に対する理解が広まってきていますが、私の周りを見る限りでは、まだまだ十分とは言えません。特に若い方々にどんどん参加してもらう機会を増やす方策はないものかと考えます。いろいろな年代層の方々の存在が、活動をより活発にしていくのではないかと考えます。また、幅広い方々との交流が、利用されている方、家族の皆さん、職員の皆さん、応援団の活動にも、大きな影響を与えるように思います。

豊かな自然に囲まれた石巻の地に安らぎを覚え、多くの方々との出会いが楽しみです。利用者さんが、地域社会で生きていく環境づくりを目指して、これからも“童里夢”的皆様方が活動の幅を広げられていくことを願っています。私も微力ながら応援団の一員として、お手伝いさせていただきたいと思います。

熱い思いが人を動かす

豊橋のお母さんから突然電話が掛かりました。「今の私たちは、お金も土地も法人格もありませんが、いつか『ファーム』のような施設を作りたいので、協力をお願いします」。

知多郡東浦町の授産施設「ひかりのさとファーム」が出来上がって数ヵ月後の1999年の夏のことでした。

『ファーム』のような施設とは、環境や健康に良い自然素材で建てた木造平屋建の施設です。もともとは馬を飼育していた広大な敷地に、安全な食材でのレストラン、天然酵母のパン工房、養鶏などの授産活動の拠点として「素材に配慮し、仲間にやさしい建物を！」と、授産施設のチームから設計依頼が舞い込んで來たのでした。

その建物を見て、「土地もお金もありませんが、」と協力依頼をしてきた豊橋のお母さんとは、小規模作業所の三婆々のお一人、小林さんです。「ひかりのさとだより」の1997年4月号にこんな記事を見つけました。

童里夢でもパンを始めたい小林さんと、天然酵母パンを始めたい下田さん、ファーム側の新人の3人の人たちと、3月17日から3日間、朝4時からパン研修を始めたことになりました。春とはいえ寒さの残る早朝のパン工房は、活気のある充実した時間となりました。

朝4時に東浦に到着するには、何時に豊橋を出るんだろう？小林さんの熱意に、きっと『ファーム』のパン担当者が動かされたように、私もすっかりその気にさせられました。

資金は補助金を当てにして、早速、月一回の検討会を始めました。単年度の補助金システムは「補助金交付の通知が着いてから1年以内に竣工」の条件がついてきます。

寺川千佳子

入札期間、工事期間を差し引くと、基本設計+実施設計に費やせる時間は3ヶ月しかありません。豊橋市所有の土地の中から勝手に敷地を選び出し、検討を始めて1年、長年の小規模作業所の活動が評価され、補助金申請のチャンスが舞い込んできました。大森さん、市古さん、小林さんの三婆々の熱意が、市長の心を動かしたのです。準備の甲斐がありました。

提供された土地は隣接する道路よりも2mも低く、勝手に想定した敷地の半分でしたが、条件の厳しさがアイディアを生み出すものです。当初の目標だった木造平屋からRC造2階建に変更し、道路からはスロープで2階に橋を架け、今の童里夢の姿になりました。

さて、10年経つと、いろいろな面で不具合が出てきます。2階の厨房の床の防水のやり直しや、角材で作ったスロープも所々木材が腐り、取り替え、再塗装をして頂いています。長い庇を支える腕木に鳩が住みつき、ネットを張ることになったのは想定外でした。自立支援法の改正で利用者の数が倍増し、コンテナ倉庫を空き地に設置して対処もしています。これからも問題は出るでしょうが、問題のお陰で夢が生まれます。スタッフ、家族会、そして応援団の熱意で人々の心を動かし、これからもハードルを飛び越えて行きましょう。



童里夢に思う

「社会福祉法人 童里夢」10周年おめでとうございます。

思えば、私の妻が大森さんとお会いし、当時小鷹野の作業所へお手伝いに伺ったのが、最初の出会いでした。私の長男も特殊学級に通っていたので、何かお手伝いができるべと伺いました。当時は、大森さん達3名のお母さんたちが必死で運営をしていました。とにかく、わき目も振らず汗まみれになって活動をしていた姿が、今でも印象に残っています。

お金がないから、みんなに知って欲しいからと、手作りのイベントもたくさんしましたね。何も手伝えない私の出番はイベントのテント張りでした。幸い町内をはじめテント張りの経験は多かったので何とかお手伝いができました。畑を作ったり、天然酵母のパンを作ったり、とにかく無我夢中で突っ走っていた時代でしたね。3人のお母さんパワーには脱帽でしたよ。

そんな活動の中で、仲間たちは増え続け、ついに「法人化する」という話が出てきました。勿論、いろいろと考えた末の結論だったでしょう。が、突然案内をいただいた私としては、本当にびっくりしました。何を言い出すんだろう、法人とはなんだか知っているのか？お金はどうするの？と疑問符ばかりでした。しかし、法人化は現実となり、こんなパワーどこにあるのだろう？と、ただただ脱帽でした。

童里夢として“独り立ち”

(1) 5年前の思い出

「T K C 全国会」(税理士や公認会計士の団体)に参加している公認会計士の方から、「支援費制度に変わり、社会福祉法人の経営が大変になってきた。社会福祉法人の賃金評価制度構築の支援をお願いできぬか？」との話をいただいたのが、約7年

松田好市



この法人化の話が出てきたころから、ボランティアを中心に組織を作ろうという話が浮上してきました。そして出来たのが「どりいむ応援団」です。

応援団も法人と同じように何が出来るか？など、その都度ふらふらしながら、法人が具体的な施策を打ち出すたびに、引っ張られる格好で活動してきました。法人も当初の、利用者の集まる所から、就労へ、そして自立へと、着実に上を見て活動を広げてきました。勿論、まだまだ課題は山積みでしょうが、これからもますます活力ある法人を目指してください。そして理想を追求する法人であり続けてください。

あつという間の10年でしたね。この先の10年間・・いろんなことがあるでしょうが、楽しみですね。理事長はじめ、職員の皆様のやる気をこれからも期待します。

そして、法人を応援していただける方々に更なる応援をお願いいたします。

本当に「10周年」おめでとうございます。

八木俊介

前の事である。「T K C」の中部北陸ブロックの責任者の方とも相談して、南区にある社会福祉法人をモデルに、1年掛けて“社会福祉法人における賃金評価制度の在り方”を検討した。その結果を「T K C研修会」という形で、愛知・岐阜・静岡等の税

理士・公認会計士の皆さんに報告した。社会福祉法人の方々も多数参加された。

5年前の平成17年に名古屋で行った研修会の際、終了後に2人のご婦人が残られて「豊橋まで月1回で良いから通ってもらいたい。経営のアドバイスをしていただけないか？」と熱心に（必死に）頼まれた。

「豊橋までですか？遠いですね。」という会話をした事を覚えている。措置から支援費制に変わった直後の事であり、お二人は大森理事長と、理事の小林さんであった。

(2) 経営のイロハから…

非常勤の理事長や理事であり経営に関わった経験もないで、全てが心配事であったようだ。また当時の施設長も経営には疎く、ヨチヨチ歩きの法人であった。大森さんは非常勤であったが、経営に対する関心は高く、あれこれ多くの事を聞き吸収していった。電話で1時間近く話し合った事も結構あったと記憶している。「何でも知っている事は伝えよう！」と、(相手は非常勤であったが)多くの事を語ったと思う。

小さな規模の割には、レストランや天然酵母パン等に取り組み、単に利用者の仲間を受け入れることでは満足しないぞ！…という気持は伝わってきたが、童里夢の特徴というか「強み」がなかなか見えてこない。でも見本というべきか、お手本になる施設（福祉の思想・理念）が、近くに存在しているという話はよく聞かされていた。“憧れ”が強く、夢見ていて地に足が付いていない状態であったような気がする。

(3) 実践してこそ意味がある！

他の施設や他人はどうであれ、童里夢は童里夢でしかないのであるから、童里夢の利用者の幸せのために努力していただきたい。つまり、独り立ちして欲しいという事である。童里夢に働く職員によって、童里夢の利用者に対するサービスが提供され、この童里夢が存在する地域に対する情報が発信される。幸せを得られるのは、他の施

設の理念によってではない。

他から学ぶとか、先進事例を積極的に吸収する事は良い事だと思う。しかし、童里夢の職員やボランティア及び家族等の手によって、童里夢らしく具体化され実践されなければ意味がない。模範と仰ぐ福祉理念や思想を、どのように（この地で）具体化していくべきか…、みなさん自身で考えて行動していただきたい。これから10年は、本当の“独り立ち”の時期ではないだろうか？素晴らしい理念に心酔するだけでなく、それ以上の童里夢らしさを追求していただきたい。

(4) 情報ネットワーク時代にふさわしく

昨今、様々な情報がリアルタイムに流されている。「もっと素晴らしい実践が全国にあるのでは？」と貪欲にアンテナを張り巡らせていただきたい。模範にすべき事例は山ほどあると思われるが、実行するのは実に難しい！私たち自身の強みや弱みを正確に把握して、童里夢らしく独り立ちして、素晴らしい実践を展開していただきたい。私と童里夢との関わりは5年が経過し、理念も見直しバージョンアップすることができた。これから10年（一つの区切りの意味）で、自分たちで考える力、行動に移す力が發揮される事を期待する。利用者や家族の皆さんの輝かしい喜びの笑顔と、職員の皆さんの確信に満ちた笑顔が、どこでも見られる「童里夢」であっていただきたい。



夢は無限大

市古尚子



私と童里夢との出会いは平成7年の3月。童里夢が通所者1名を迎える、ようやく無認可小規模作業所として開所しようとしている矢先でした。障害を持つ子供を抱えながらも明るく元気で行動的なお母さん方に接し、ショックを受けた事を今も鮮明に覚えています。

当時私にも豊川養護学校に通うダウン症の娘がおり、その頃の進路講話では養護学校卒業後はどの施設も満員になるため行くところが無くなるという現実があるということや、市に頼るのではなくお母さん達が立ち上がって活動していく事が市に訴えることに繋がっていくと教えられました。私が出会ったお母さん方は、ずっとずっと前から将来を見据えて行動していたと知り、頭が下がる思いがしました。そして私は、ボランティアでお手伝いをしていくうちにいつの間にか童里夢の夢を語る仲間に加わっていました。

その二年後、小規模作業所童里夢は認可をいただきましたが、財政難がいつもついて回る厳しい環境の中にありました。それゆえに利用者も、職員、家族も地域の方々の力を借りて、皆で力を合わせて乗り越えてきました。バザーが出来る所へは天然酵母のパンと木工製品を持って飛び回ったことが懐かしく思い出されます。作業所を維持していくうえにも利用者支援においても基本理念である『共に汗し、共に笑い、共に語ろう』の言葉を何度もかみしめたことでしょう。

障害を持つ者の長い人生を支えるのに必要な支援は何かと考え、将来のグループホームを夢見て親離れ子離れの経験を積んでいく宿泊体験、余暇支援など小規模作業所ならではの枠にとらわれない自由な発想や思いを試行錯誤しながら形にしようと進めてまいりましたが、小規模作業所では回していけない現実にもぶちあたり、それが社会福祉法人への夢に繋がっていきました。

童里夢が法人になって早10年が経ちました。措置から利用契約制度に変わり自立支援法が現れ、法人になったばかりの童里夢にとっては大変苦しい10年だったと思います。しかしその中でも利用者の働く場所（就労生活支援センター童里夢）暮らしの場所（共同生活支援ばあとなあ）余暇支援（地域生活支援センターすたあと）という利用者の暮らしを支える事業が確立出来たことは利用者、家族にとって大変うれしい事です。

最近、私のように事業所側、利用者側に居合わせる者にとっては複雑な思いを感じる場面に遭遇します。利用者側にとっては利用すればするほど理想のサービスを求めていきます。また、サービスを安易に利用してサービスに頼ってしまい本来なら家族がやるべき部分をサービスで補ってしまうなど問題点も見えてきました。事業所は利用者にとって本当に必要な支援なのか、良い支援が出来ているのかを常に考えていく必要が出てきます。サービスを提供する側と受ける側が歩み寄り、意見を出し合っていけば理想のサービスが出来上がっていくのだと思いますが、簡単そうでなかなか難しい事でもあるのです。でも出来る筈です。夢は同じですから。今後の童里夢を考えるために10周年という区切りはとても良い機会です。新たな気持ちで歩んで行きましょう。

どうしていいかわからない時は・・・

小林万知子

「どうしていいかわからない時は、理念に立ち返れ！」これは、私が知多の愛光園にたびたびおじやまして教えてもらったなかで、一番印象深い言葉です。私は福祉に関する多くのことを愛光園から学ばせてもらいました。

福祉のことは、障がいのあるわが子を通してしかわからない、お金もない、土地もない、知恵もない、ないないづくしの私達が多くの方達の助けをいただきたり、ひっぱっていただきたりして、童里夢ができあがりました。

私は愛光園が大好きで、愛光園のたくさんの実践をみせてもらいました。話も聞かせてもらい、いつも童里夢の実践におきかえてきました。愛光園の住人さんに対する謙虚な姿勢や本人さんの気持ちを大事にする強い信念にはいつも驚かされました。そんなふうになれたなら。そして童里夢は愛光園の理念をいただきました。

童里夢の理念は浸透しているかな？昨年、経営コンサルタントの八木さんはからいで、初めて理念の分析をしました。理念は飾っておくだけではだめだと、職員みんなで考えました。新鮮でした。みんなそれぞれの理解をしているのがわかりました。

この10何年は、私自信の中に童里夢の理念をおとしこんだ10年だったかもしれない。何度もどうしていいかわからなくなる時がありました。今はすたあとでヘルパーとして働かせてもらっています。ある時ヘルパーである家庭に家事援助に行きました。その方は生きる希望を失ってみました。何もかもが投げやりでした。私の頭の中で尊厳と自己実現の2文字がクローズアップされました。生きたいですか？死にたいですか？究極の自己選択です。声には出しませんが、いつもこの言葉をその方に投げかけていました。どう対応していいか迷いながらも、尊厳を持って支援させてもらうと、その方は薄皮を剥ぐように変わって

いかれました。生きたい！と訴えているようでした。

今からは童里夢のみんなで理念を浸透させていく期間でしょうか。

障害があろうとなかろうと、だれと変えることのできないかけがいのない自分があり、ともに助け合うことで、その人なりの自己実現をしてもらいたい。そして、童里夢にかかわるだれもが生きてて良かったと言って欲しい！

先日、我が家の庭の手入れをしていると、赤い花のつるが思わず所まで伸びていてびっくりしました。童里夢も10年たちました。ぎくしゃくしていた組織もたくさんの方達の指導や努力でまとまりや活力がでてきました。童里夢は今から！そんな気がします。

充実した期間でした。楽しかったなー。ただただ感謝です。



童里夢とともに、そしてこれからも

大森妙子

「私は夢を持つという言葉が好き」自分の夢が実現した様を頭に描くと、心がワクワクしてきてカーッと胸がこみ上げてきて、その後、俄然やる気が湧いてくるのです。私が目を閉じて夢を頭に描いてみると出てくる風景はいつも一緒。朝日が燐々と差し込む道の、右からも左からも沢山の人々が行きかっています。その中には健常者も障害者もごく自然に入り混じっています。時間が無いのか小走りする人もいます。知った顔に会うと、『よーう！、元気かあ？！』と気軽に声をかけ『はい、まずは幸せにやらせてもらっています。』と元気に答える障害者。『そうか！今日もきばりや、わしもきばるしな』『は～い！行ってきまーす！』こうした会話があっちでもこっちでも飛び交い、町も人も活気に溢れた朝のひと時。どの時代なのかどこの町なのか人々がどこへ行こうとしているのかはわからないけど、すべての人々が温かく交じり合い素朴で心豊かで元気に満ちあふれているのです。まさしくこの様子が童里夢という文字が表す意味であり、私があこがれる社会です。

障害のある人達も世の中の人々とかわらない存在とし、同じように命の尊厳、自由な自己実現、うまれてきた生き甲斐を求めていることを共感し、共生している光景です。

今から10年前、私たちは無認可のちっちゃな施設の運営を卒業し、依然として小さいながらも法人化を遂げました。そうすることで働くことへの支援のみならず、親から巣立った仲間との共同生活の支援、余暇の支援、親元で暮らす人達や一人暮らしする人達の生活の支援などの仕組みをつくり、専門性、継続性を確立させようと思いました。

そして、障害のある人達も夢や希望を持ちながら色々な経験を通して自分磨きをし、何ものかによってコントロールされるのではない自分の人生を歩み、人生の最後を迎えたときには『障害を持って生まれてきて

もまんざら悪くはなかったよ』と言える人達が一人でも多くなるような社会になることを願うと同時にその社会づくりをしたいと思いました。この私たちの思いを理解し共感し力を貸してくださった方がどれほど沢山いらしたことか。

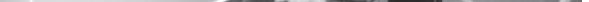
また、行政の皆様にはこの法人化を進めるために新たな条例をつくって頂くことから始まって、多大なるご支援ご協力を頂きました。このときの感動と感謝の思いは今でも消えるものではありません。

法人設立後2年余り経った平成15年度から、障害者に関わる法律は目まぐるしく変化し今尚、変わろうとしています。この状況下、私たちは法律に沿いつつも、振り回されることのないよう自分たちの意思に基づく方針を持って活動してきました。

この間には喜びがありました。と、同じぐらいに困難なこともあります。

苦しいことが長く続くと、問題なく一日が過ぎることが恋しくなりました。しかし、事業運営でも利用者支援でも、「事としたいではスムーズにことが運ぶことは一見スマートでも中身のない空しいものかも知れない。障害のある方たちが『どうしよう』と迷い行動が止まったとき、ただ動いて頂くための目先のテクニックに留まらず、原因は何か、思いは何か、と共に考え共に行動し、共に苦しんだ後、『にっこり』してくれる瞬間が私たちの喜びだった。」と思い直します。我が法人はまだたったの10歳で掲げる夢の麓にいます。障害のある方たちに必要な支援を継続的に提供できるように、時代に合わせて変化しながらこれからも努力して参ります。これまでの間、ほんとに多くの方々が色々な形でご支援くださいました。

この場をお借りしてお礼申し上げます。そして、今後ともどうぞ宜しくお願ひ致します。







就労生活支援センター童里夢（多機能型事業所）

事 業／生活介護・就労移行支援・就労継続支援B型
生産活動 天然酵母パンの製造・販売
 レストラン運営
 産みたてたまごの配達
 さをり織り 木工作業 農作業
 所在地／豊橋市石巻町字野田 6 番地の 5
 T E L／0532-87-0800
 F A X／0532-87-0801
 E mail／doriimu@mx3.tees.ne.jp

就労生活支援センター童里夢（多機能型事業所）
Pan-Kan 製造センター

事 業／生活介護・就労移行支援・就労継続支援B型
生産活動 缶入りパンの製造・販売
 所在地／豊橋市南牛川 1 丁目 19 番地の 3
 T E L／0532-26-9088
 F A X／0532-26-9089
 E mail／pan-kan-doriimu@aj.wakkaw.com



地域生活支援センターすたあと

事 業／居宅介護 短期入所 相談支援
 移動支援 行動援護 重度訪問介護
 日中一時支援 私的契約サービス
 所在地／豊橋市牛川薬師町 10 番地 南無三館西館
 T E L／0532-51-6885
 F A X／0532-51-6886
 E mail／sutaato@axel.ocn.ne.jp



共同生活支援ばあとなあ

事 業／共同生活介護
 共同生活住居 4か所（県営金田住宅内）
 他 1 か所運営
 連絡先／豊橋市石巻町字野田 6 番地の 5
 T E L／0532-87-0800（童里夢内）
 F A X／0532-87-0801
 E mail／doriimu@mx3.tees.ne.jp

章里夢の皆さまへ・・・看板に見合っていたか? しているのか? していくのか?

山田 優

ところで、童里夢の「あるべき姿」や今後の方向性等を・・・と依頼されました。

難しいですね。法律がこの8年間に措置制度から支援費制度。そして自立支援法からさらに変わろうとしています。根拠となる法律が3度替わり、さらに替わるのです。

少し視点を変えてみましょう。「あるべき姿」・「今後の方向性」。この言葉の出所から考えて見ましょうか。どうも、この言葉から得られる印象は、支援をしている人たち・運営している人たちの側からの発想ですね。ここが私にはズレているように感じます。法律が替わりましたが変わらないものもあります。むしろ願っていた方向に変ってきた・・・部分があります。それが、このズレとは何かと気付かせるはずです。

回りくどくなってしまいました。私の癖なんです。

つまり、利用者さんたちは何を望んでいるのかな？ですね。きっと10周年記念誌にあわせて、利用者さんと座談会を企画されるのでしょうか？その利用者さんの深い思いを支援者は懸命に汲み取っていただきたいのです。これから童里夢への示唆が・ヒントが一杯含まれているのではないかでしょうか。10年の月日は、利用者さんに「聴ける・聴き取りが出来る支援者であれ」と、育ててもらった歩みではないでしょうか。

「こうしましょう」「こんな方向に向かいましょう」「こうでなければならない」・・・という言葉を、「どうしていこうか?」「どうなつたらいいかな?」「あなたはどんな役割をしたいかな?」と、利用者さんに投げかけてください。既にされているのではあれば、私がここに書くことは失礼になります。みなさんから、「私たちは〇〇〇をしますのでよろしく」と、楽しい夢を教えてください。そして実現に向かってステップを登る様子を、時々見せてください。

期待しています。



豊橋市の西北にある石巻山の麓、団地のはずれにコンクリートむき出しを基調とした建物が現れてから10年・・・ですね。「良く頑張った!!」某総理大臣ではないですが、集い・関わり・夢を描いてきた人たちの、熱い想い・汗一杯噴出して努力してきた皆さんに、相応しい言葉だと思います。お疲れ様でした。

もしこの10年が、あわただしく過ぎた
と感じれば、それはひたむきな想いをカタ
チに現そうとしてきた人たちの素敵なお生き
様である証しでしょう。

ふと我に返ると、増えたのは歳の数と小じわの増えた顔・たるんだまぶた・二の腕。隠しようがなくなった崩れた体系と腹囲。減ったのは、ときめきと感動と・怒り・粘り強さ・そして残された人生。薄くなつたのは、頭髪と胸と臀部の肉。昔は筋肉マン言われていました。T V も薄く横に広がり6畳間の壁紙となり、お父さんが濡れ落ち葉になり、お母さんだけが膨らみました。心配しなくともいいことも増えました。自分のことを考える時間・厚くなつた面の皮。そして何があつても動じなくなつたこと(実は腰が重くなつてフットワークが悪いのですが)・・・とポジティブに考えましょうよ。そして、童里夢を、お客様として訪ねる日が心配しなくとも確実にやってきますよ。

共に汗し、共に笑い、共に語ろう



小規模作業所童里夢 1996

井口健二 豊橋市障害福祉課課長
西川良継 私立桜丘高等学校教諭（地域活動部顧問）
石原紀久代 どりいむ応援団（後援会）会長

寺川千佳子 どりいむ応援団事務局長 一級建築士（童里夢の建物の設計者）

松田好市 どりいむ応援団初代会長

八木俊介 労務経営コンサルタント

市古尚子 三婆（社会福祉法人童里夢理事）

※ 三婆（さんばば）

小林万知子 三婆（社会福祉法人童里夢理事）

当時、童里夢を中心に奮闘する3人の女性を

大森妙子 三婆（社会福祉法人童里夢理事長）

周囲は、敬意を表し愛情を込めて三婆とよんだ！？

山田優 伊那谷住人（愛知県・長野県相談支援アドバイザー、G H・C Hアドバイザー）

編 集 後 記 ・・・温故創新

『法人設立10周年にあたり、記念誌の作成を企画しているのですが、ぜひご協力ををお願いします。お題は、締め切りは・・・』ついぶんと無理なお願いをしてしまいました・・・が、たくさんの原稿が集まり素敵な冊子になりました。

古いアルバムを開くと・・・元気な笑顔をいっぱい見つけることができました。童里夢は、たくさんの人達の共感と希望と力をいただくことで生まれ、その思いを再確認して、未来の童里夢の姿を想像する時、たくさんの人達、その一人ひとりの気持ちに感謝しながら進まなければ・・・とあらためて感じます。

童里夢の仲間たちと一緒に、明るく楽しく、そして時に厳しく・・・一人の共感者として共に歩みたいと思っています。ご協力ありがとうございました。

橋元賢治 就労生活支援センター童里夢管理者